

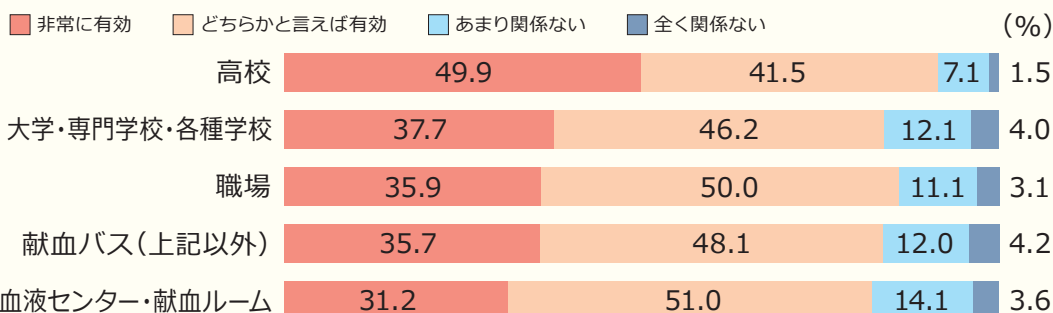
## 学校における献血推進活動が重要です

① これからの日本社会の人口動態を考慮すると、献血可能人口は減少すると推定されます。血液製剤は医療に無くてはならないものですので、血液が足りなくなって患者さんに届けられない、という事態はどうしても避けなければなりません。

そのため、これからの社会を支える若年層の献血者をいかに増やすかが喫緊の課題となっています。

② 厚生労働省が献血経験者を対象に実施した調査では、多くの人(特に、初回献血の場所が高校だった人)が「高校での献血がその後の献血への動機付けに有効」と考えていることがわかりました(下図参照)。

### Q. 高校での集団献血が、その後の献血への動機付けとなるか



H23厚生労働省作成

初めて献血した場所

## 少しでも献血に触れ合える機会を生徒に提供してください

若いうちから献血に触れあえる機会を持っていただくため、献血受入を行っている日本赤十字社では、献血のきっかけづくりや、将来にわたって献血にご協力いただくための取組として、中学校・高等学校等に出向いての「献血セミナー」(スライド・映像やパンフレットを用いた学習講座)を積極的に実施しております。

献血については、平成21年7月に改訂された「高等学校学習指導要領解説／保健体育編」に「献血の制度があることについても適宜触れる」ことが追記され、令和5年6月に閣議決定された「骨太方針2023」において、小中学校現場での献血推進活動を含め献血への理解を深めることが重要とされました。

**学校現場において、広報資材の配布や、出前講座、学校献血等献血に触れ合う機会の受入れについて積極的に取り組んでいただけるよう、ご協力をお願いします。**

※出前講座、学校献血については、最寄りの都道府県赤十字血液センターにお問い合わせください。

